

通信事業者が Red Hat で仮想マシンとコンテナの管理を統合

コンテナと仮想マシン (VM) にアプリケーションを同時に展開し保守する際に生じる複雑さとコストを軽減するために Red Hat と連携する通信サービスプロバイダー (通信事業者) は少なくありません。そうした通信事業者は、Red Hat® コンサルティングと協力して Red Hat OpenShift® を実装し、組み込みの仮想化機能を活用して、コンテナベースのアプリケーションと VM の両方を単一のプラットフォームで管理できるようにします。また、障害復旧機能を強化するために、Red Hat Advanced Cluster Management for Kubernetes と Red Hat OpenShift Data Foundation も導入します。ここでは、通信事業者が先進的な統合プラットフォーム上でコンテナと VM を効果的に管理するための 4 つの方法について説明します。

1 アプリケーションのモダナイゼーションと移行を統合

通信事業者がネットワークを安定的に運用するためにはネットワーク監視ツールやパフォーマンス管理ツールなどの運用支援システム (OSS) が不可欠です。多くのベンダーや独立系ソフトウェアベンダー (ISV) が、オープンスタンダードのクラウドコンピューティング・プラットフォームを用いたマイクロサービスベースの OSS の開発にすでに着手していますが、アプリケーションのモダナイゼーションと並行して VM 管理をサポートする、より効率的で将来を見据えたソリューションを求めて Red Hat と連携する通信事業者も少なくありません。

Red Hat による支援: イノベーションと従来の最適化の両立を重視する通信事業者は、Red Hat と連携し、新しいハイブリッドクラウド・プラットフォームの設計と実装に取り組んでいます。ある世界的な大手通信事業者は、概念実証 (PoC) の成功を受け、アプリケーションの移行、モダナイゼーション、展開において包括的かつ一貫したエクスペリエンスを提供する共通のテレクラウド・プラットフォームとして Red Hat OpenShift を選択しました。*

Red Hat OpenShift を使用すると、通信事業者の運用コストは削減され、効率と市場投入時間も改善します。この世界的な大手通信事業者の場合は、ビジネスクリティカルなコンテナベースのアプリケーションの展開が 80% 高速化しました。* 既存のサーバーとストレージを活用することでコスト効率を最大化しつつ、長期的なニーズに合わせて共通のテレクラウド・プラットフォームを運用できるよう取り組むことができます。

2 仮想ワークロードとコンテナワークロードの管理を統一

通信事業者は仮想化アプリケーションによるコスト上昇に直面しており、広範な VM フットプリントの管理における非効率性の解消を模索しています。Red Hat のお客様である大手 GSM (Global System for Mobile Communications) 事業者は、サービス・ネットワーク・オペレーション・センター (SNOC) に 200 を超えるノード、さまざまな事業部門に 1,000 以上の VM を保有しており、以前は別々のプラットフォームでコンテナと VM を運用していたため、管理が複雑で大きなコストがかかっていました。*

Red Hat による支援: 多くの通信事業者が Red Hat と連携し、複数のデータセンターで Red Hat OpenShift を使用して VM の作成、実行、管理を行っています。Red Hat OpenShift の付属機能である Red Hat OpenShift Virtualization を最大限に活用することで、コンテナと並行して VM を問題なく管理できる先進的なプラットフォームを手に入れることができます。また、付属の仮想化移行ツールキットを使えば、大規模な VM 移行を単純化できます。また、VM のみを使用する場合は、ワークロードの移行、管理、拡張を効率化するソリューションとして Red Hat OpenShift Virtualization Engine が提供されています。

別の大手通信事業者にとっては、Red Hat のコスト効率の良い価格設定がメリットとなりました。同社の使用する Red Hat ソリューションには Red Hat Enterprise Linux® が含まれており、ワークロードの約 70% を占めていました。その結果オーバープロビジョニングが 20% 削減し、リソース使用が最適化され、需要に基づいた動的なスケールアップが可能になりました。この通信事業者はプラットフォームを Red Hat に集約することでサブスクリプションコストを削減し、効率を向上させ、総所有コストを 30 - 40% 削減することを目指しています。*

* Red Hat 顧客データ。

3 組み込みの堅牢な障害復旧機能を活用

OSS アプリケーションは、通信事業者がサービス停止を防ぎ、ビジネス継続性を確保する上で重要な役割を果たします。そのため、これらのシステムの障害復旧 (DR) は、新しい環境でも堅牢な DR 機能を維持したいと考えている多くの Red Hat のお客様にとって最優先事項となっています。

Red Hat による支援: Red Hat はあらゆるプロジェクトにおいて、Red Hat Advanced Cluster Management for Kubernetes や Red Hat OpenShift Data Foundation などのテクノロジーに基づく DR ソリューションの設計と展開を支援できます。

Red Hat のあるお客様は、既存のハードウェアを最大限に活用し、SNOC アプリケーション (障害管理システムやパフォーマンス管理システムを含む) を保護しながら、3 つのデータセンターにまたがる環境を構築した際にこのソリューションを活用しました。DR 環境が強化されたことで、主要拠点に影響を及ぼすインシデントが発生した場合も、影響を最小限に抑えつつサービスを維持できるようになりました。*

4 経験豊富なベンダーと連携

多くの通信事業者は、プロジェクトが開始されると、ビジネス要件の充足、既存テクノロジーの最適化、およびスムーズで一貫性のある統合を実現するために、信頼できるベンダーの支援が必要になることを認識しています。他の多くの企業の場合と同様に、不十分なリソースと専門知識の不足は、成功に対する共通の障壁となります。

Red Hat による支援: Red Hat コンサルティングは、通信事業者の変革に向けたプロジェクトのリスク、コスト、期間を最小限に抑えられるよう支援します。Red Hat コンサルティングチームは、通信事業者の既存の環境 (コンピューティング、ストレージ、オペレーティングシステムなど) について詳細な評価を実施した後、既存のハードウェアを最大限に活用し、適切なソリューションを選択して移行を成功させることができるようサポートします。

ある Red Hat のお客様の SNOC におけるプロジェクトが成功したことを受けて、さまざまな通信事業者の事業部門も Red Hat OpenShift をデフォルトのプライベートクラウド・プラットフォームとして導入し、OpenShift Virtualization 機能を使用するようになっていきます。*

[仮想化移行評価の詳細を見る](#)

[Red Hat がどのように通信事業者の変革を支援するかについて詳しく見る](#)



Red Hat について

Red Hat は、[受賞歴のあるサポート](#)、トレーニング、コンサルティング・サービスをお客様に提供し、複数の環境にわたる標準化、クラウドネイティブ・アプリケーションの開発、複雑な環境の統合、自動化、セキュリティ保護、運用管理を支援します。

アジア太平洋
+65 6490 4200
apac@redhat.com

オーストラリア
1 800 733 428

インド
+91 22 3987 8888

インドネシア
001 803 440 224

日本
03 4590 7472

韓国
080 708 0880

マレーシア
1 800 812 678

ニュージーランド
0800 450 503

シンガポール
800 448 1430

中国
800 810 2100

香港
800 901 222

台湾
0800 666 052

[f fb.com/RedHatJapan](https://fb.com/RedHatJapan)
[X twitter.com/RedHatJapan](https://twitter.com/RedHatJapan)
[in linkedin.com/company/red-hat](https://linkedin.com/company/red-hat)